

<b>令和3年度 基本評価調書①</b>		所管部局	総合政策部	所管課	地域政策課	
施策名	グローバル人財等の育成			施策コード	02111	
政策体系(中項目)	北海道の未来を拓く人材の育成			政策体系コード	3(2)B	
知事公約	C0014	総合戦略	A1323	国土強靱化	-	事務事業数 2
SDGs				総合判定	やや遅れている	

**【1 Plan】**

施策目標	活力ある未来を拓くため、ほっかいどう未来チャレンジ基金を活用して、若者の留学支援や世界を舞台に活躍出来る人材の育成や、既成概念にとらわれないアイデアで「新たな価値」を創出する人材の発掘・育成を推進する。					
現状と課題	人口減少やグローバル化進展の中で、北海道が活力ある地域として発展し続けていくため、北海道への誇りと異なる文化への寛容を身につけ、国際社会に貢献する高い志と広い視野を持って、地域や世界の課題解決に向けて主体的に取り組もうとする意思を持つグローバル人材の育成・確保が必要である。					
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ほっかいどう未来チャレンジ基金」を活用し、若者の海外留学や、スポーツ指導者、芸術家、職人等を目指して海外での資質向上に取り組む挑戦を支援する。</li> <li>帰国した留学生が成果を北海道に還元できるように、道主催事業へ講師として紹介するなど各部局等と連携を図るとともに道内各地域で留学成果を報告するなど効果の波及に取り組む。</li> </ul>					
予算額(千円)	R3	30,669	R2	34,368	R1	27,695
施策のイメージ						

**<成果指標の達成状況> ⇒ 3つ以外の指標は、補助指標調書に記載**

指標名①	増加	件	R元年度	R2年度	R3年度	最終目標(R6)	達成率	指標判定
「ほっかいどう未来チャレンジ基金」応援パートナー・応援サポーター数	目標値		92	97	102	117	100.0%	A
	実績値		95	97	102	-		
設定理由	基金への支援企業等の増加により、事業推進に必要な資金の獲得を図る。							
<b>分析(主な取組と成果)</b>								
事業のPR等地道な広報活動及び企業訪問により事業への理解が深まり、支援企業等の増加が図られた。一方で、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により企業等の寄附マインドの低下が見られ、寄附企業数及び寄附金額の伸び悩みが見られた。								

指標名②	増加	人	R元年度	R2年度	R3年度	最終目標(R6)	達成率	指標判定
「ほっかいどう未来チャレンジ基金」による助成者数	目標値		26	35	44	71	65.9%	D
	実績値		26	26	29	-		
設定理由	基金を活用し、海外での挑戦を目指す若者を増加させることにより北海道に貢献する人材育成を図る。							
<b>分析(主な取組と成果)</b>								
広報活動や大学等における留学説明会の開催により留学マインドの向上を図ったが、令和2年度は世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により留学生募集を中止したため助成者数の増加につながらず、令和3年度も感染症の影響を受け、応募者数が低調となった。								

指標名③	増加	人	R元年度	R2年度	R3年度	最終目標	達成率	指標判定
	目標値							
	実績値							
設定理由								
<b>分析(主な取組と成果)</b>								

令和3年度 基本評価調書②	施策名	グローバル人材等の育成	施策コード	02111
---------------	-----	-------------	-------	-------

### 【2 Do&Check】

成果指標	指標名	前々年度	前年度	評価年度	評価年度目標値	指標判定
成果指標	「ほっかいどう未来チャレンジ基金」 応援パートナー・応援サポーター数	95	97	102	102	A
	「ほっかいどう未来チャレンジ基金」による助成者数	26	26	29	44	D
目標(指標)の達成状況	<p>・産学官による三位一体の推進体制での円滑な運営を行い、応援パートナー企業等や関係団体を通して募集の周知を行うとともに、若者からの応募に対し専門分野の有識者等による面接を実施し、第4期生3名を選抜した。</p> <p>・ホームページやSNSを活用した事業のPRにより、寄附を行ったパートナー企業やPR協力いただくサポーター企業の増加につながった。</p>				指標総合判定	B
連携状況	<p>・道民ホールでの基金PRパネル展において、道教育庁主催「北海道グローバル人材育成キャンプ」や「Hokkaido Study Abroad Program」における講師としての基金生の派遣について紹介したり、商品販売と連動した基金への寄附を行うタイアップ事業を行うなど企業と連携を図っている。</p>				連携判定	○
緊急性優先性	<p>大学、応援パートナー企業へアンケート調査を行い、事業の評価や帰国者の活用、新型コロナウイルス感染症の影響下での留学事業等について意見を徴取し、9割以上の企業等にグローバル人材育成に資する事業となっていると評価いただいた。</p>				緊急性優先性判定	○
総合判定の根拠	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、留学の応募者が低調で、助成者の増加が伸び悩んだが、応援パートナー企業・応援サポーター企業等の増加により支援の輪は着実に広がっており、更にPR強化による応募者の掘り起しや帰国者の支援に力を入れていく必要がある。</p>				総合判定(一次評価)	やや遅れている

翌年度に向けた対応方針	対応方針番号	内容
	①	新型コロナウイルス感染症の影響により留学マインドが低下しているため、きめ細かな情報発信や帰国者の活動PRなどにより制度を広く全道に周知する。
	②	各大学や専門学校、パートナー企業等を周り、応募者の掘り起しを図るとともに、応募者増加に向けた留学説明会や相談会を実施する。
	③	令和3年度で官民協働海外留学支援制度を活用した国からの助成がなくなるため、学生留学コースの支援内容を再度整理・見直しを行い、基金を活用した効果的な留学助成事業実施に向けて制度の再構築を図る。

### 〈二次政策評価〉

前年度二次評価意見	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、施策の目標達成に向け事業内容を精査すること。	対応状況(R3.3時点)	新型コロナウイルス感染症の状況や国の動向等を踏まえ、募集・選考まで実施し、夏以降に予定している渡航・留学について、感染症の状況等も考慮し、実施を慎重に判断する。
R3年度二次政策評価			

### 【3 Action】

二次政策評価への対応	
R4施策の方向性	○活力ある未来を拓くため、ほっかいどう未来チャレンジ基金を活用して、若者の留学支援や世界を舞台に活躍出来る人材の育成や、既成概念にとらわれないアイデアで「新たな価値」を創出する人材の発掘・育成を推進する。